



思いあがって、
盛りあがって、
笑いあがって、
つながれ！
スマイル

今年の元気ッス！へきなんは 開催中止します

問 元気ッス！へきなん市民会議 ☎95-9872

元気ッス！へきなん市民会議は、市からの委託を受け、市民まつり「元気ッス！へきなん」の企画や運営を行っている市民の集まりです。今年の元気ッス！へきなんの開催の中止について、皆さんにお知らせします。

今年の元気ッス！の開催を中止します

第23回元気ッス！へきなんは、令和3年度には行いません。「冬頃開催予定」として広報へきなん5月1日号にて発表しましたが、開催を中止します。新型コロナの感染拡大とその防止に関わることで、先行きが不透明であることなどの全てを含んだいわゆる「コロナ禍」が理由です。

「準備を進めたい」「不安だ」「やりたい」「できるとは思えない」「望まれていないのではないかな」……。メンバーの一人ひとりから募った意見や考えには、1つとして同じものはありませんでした。それでも決めなければならない。私たちは議論を尽くした上で、みんなで中止を選びました。進めたい人、中止すべきとする人、どちらとも言えない人。全員に共通するのは「(本当は) やりたい」という気持ちでした。「悔しい」の一言に尽きる選択でした。

「冬の元気ッス！」というかつてないチャレンジにあたり、私たちは、場所、方式、感染対策などたくさんのアイディアを出し合いました。その上で、主催者である市と元気ッス！へきなん市民会議と両者の選択を確かめ合い、中止を決定しました。

来年度はどうなるの？

分からないというのが正直なところですが、分からないけど、諦めない。分からないけど、前には進む。先の見通しは立ちませんが、今度こそみんなで踊って歌って笑い合えることを信じて、私たちは来年度の準備に入ります。引き続き、温かく受け止めて、次の夏を楽しみに待っていただくことで、私たちの「しづとい挑戦」にエールを送っていただけると、やっぱり嬉しいです。



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課
☎48-6602

No.90 空中写真散歩(8)

～伏見屋・東浦・平七～

写真の地域は、古くは、県道より下側は海で、県道より上側の海岸線は東浦、霞浦と呼ばれ、初め棚尾村から東浦に4軒移り住んだといひます。この地先に、寛文4年(1664)に稻生平七郎らにより平七村が、2年後から伏見屋又兵衛により伏見屋新田が、それぞれ

開かれました(稻生は稻生社に、伏見屋は稻荷神社内の三宅社に祭られています)。その後、東浦と平七の人家が入り組んだため、明治9年(1876)に東浦が棚尾村から平七村に組み入れられました。

やがて、このあたりは明治39年(1906)に旭村となり、昭和5年(1930)に村役場が新築されました。市制施行後は役場が支所となり、現在では県道が縦横に延伸し、宅地化が進んでいます。



△1948年撮影空中写真／国土地理院提供